

- 19 【主】は私にこう言われる。「行って、ユダの王たちが出入りする、この民の子らの門と、エルサレムのすべての門に立ち、
- 20 彼らに言え。『これらの門の内に入るユダの王たち、ユダ全体、エルサレムの全住民よ、【主】のことばを聞け。
- 21 【主】はこう言われる。あなたがた自身、気をつけて、安息日に荷物を運ぶな。また、それをエルサレムの門の内に持ち込むな。
- 22 また、安息日に荷物を家から出さな。いかなる仕事もするな。安息日を聖なるものとせよ。わたしがあなたがたの先祖に命じたとおりだ。
- 23 しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、うなじを固くする者となって聞こうとせず、戒めを受けなかった。
- 24 もし、あなたがたが、本当にわたしに聞き従い——【主】のことば——安息日にこの都の門の内に荷物を持ち込まず、安息日を聖なるものとし、この日にいかなる仕事もしないなら、
- 25 ダビデの王座に就く王たちや、車や馬に乗る首長たち、すなわち王たちとその首長たち、ユダの人、エルサレムの住民は、この都の門の内に入り、この都はとこしえに人の住む所となる。
- 26 ユダの町々やエルサレムの周辺から、ベニヤミンの地やシェフェラから、また山地やネゲブから、全焼のささげ物、いけにえ、穀物のささげ物、乳香を携えて来る者、また感謝のいけにえを携えて来る者が、【主】の宮に来る。
- 27 しかし、もし、わたしの言うことを聞き入れず、安息日を聖なるものとせず、安息日に荷物を運んでエルサレムの門の内に入るなら、わたしはその門に火をつけ、火はエルサレムの宮殿をなめ尽くし、消えることがない。』」

* 特に断りが無い限り、新改訳2017より使用



「 エレミヤの祈り～恵みを軽んじないために 」

| エレミヤ書講解-41 エレミヤ書17:12~27 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 17章 】

- 12 私たちの聖所がある場所は、 初めから高く上げられた栄光の王座だ。
- 13 「イスラエルの望みである【主】よ。
あなたを捨てる者は、みな恥を見ます。」
「わたしから離れ去る者は、 地にその名が記される。
いのちの水の泉である主を捨てたからだ。」
- 14 「私を癒やしてください、【主】よ。 そうすれば、私は癒やされます。
私をお救いください。 そうすれば、私は救われます。
あなたこそ、私の賛美だからです。
- 15 ご覧ください。彼らは私に言っています。 『【主】のことばはどこへ行ったのか。 さあ、それを来させよ。』
- 16 しかし私は、あなたに従う牧者になることを 避けたことはありません。
癒やされない日を望んだこともありません。
あなたは、私の唇から出るものが 御前にあることをよくご存じです。
- 17 私を恐れさせないでください。あなたは、わざわいの日の、私の身の避け所です。
- 18 私を迫害する者たちが恥を見て、 私が恥を見ることのないようにしてください。
彼らがうろたえ、 私がうろたえることのないようにしてください。
彼らの上にわざわいの日を来たらせ、破れを倍にして、彼らを打ち破ってください。」

(4ページへ続く)

◆はじめに ～最も幸いな機会と、それを軽んじる悲劇

「人生はチャンスに満ち溢れている」（テール・カーネギー）

1.人生で最も幸いな機会は、神に歩み寄る機会

(1) 目前の機会を認識し、応答する人としらない人（「幻」と「景色」の例）

- ①世にあふれる情報（誤った宗教へのレッテル、人間観、世界観など）。
- ②人の内で働く原罪（世を愛し、神に反する罪の性質）と、悪魔の働き

(2) 神の自己啓示（神を知る機会）

- ①一般的な啓示（自然、良心、歴史※など） ※契約の民イスラエルの守り
- ②特別啓示（聖書）とクリスチャンたちの証し

(3) チャンスは有限で、いつまでも続かない（回帰不能点がある）。

2.立ち返る機会（猶予）と神の愛

(1) 神の猶予は愛ゆえの恵みであり、応答する者を神は喜ばれる。

- ①応答しない者が受ける報いは、当然の結果である。
* 矯正の目的を含むさばきと、矯正の余地の無い罰とに区分できる。

(2) 未信者は神と和解し救いを得るために、信者はなお神の愛に応答するために与えられた機会を、神の招きを軽んじるな。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

神の恵みをむだに受けない

*このメッセージは、神の恵みを受ける幸いと、軽んじる恐ろしさを学ぶものである。

I イスラエルの望み（12～13節）

1.神殿があるエルサレム

(1) 真の希望がどこから来るか：5節以降（人間や不正の富への頼りない希望）との比較

- ①神殿のあるエルサレムこそ、神の栄光が宿る王座。*参照14：21
- ②【主】こそエルサレムの希望である。 *参照「いのちの水」2：13参照

2.【主】から離れるなら、イスラエルに希望はない。

(1) 主から離れる者は愚か者（新改訳第3版「しれ者」：イスラエルの特徴的表現）

*主を知ることが知識の初め（箴1章） *比較：エルサレムへの迷信的確信（7：1～9）

II エレミヤの3つの願い（14～18節）

1.神による心の癒し（14～16節）

(1) エレミヤの預言はすぐには成就しなかった（成就まで約40年の時差）

- ①偽の預言者のことばは成就しない 申18：22
- (2) 預言が成就しないのを見て、人々はエレミヤをあざ笑った。
 - ①人々に足りないもの：自らを省み、神のことばを見極める誠実さ。神への愛。
 - ②40年の時差は、悔い改めるように用意された猶予期間。神の恵みである。

(3) すべてを正しく扱われる神への賛美こそ、エレミヤの喜びである。

2.私を恐れさせないでください（17節）：預言者として使命を全うするための必要

- ①「避け所」：身を隠せる荒野の裂け目、安全地帯。
- ②真の避け所は、神の守りと恵み。信仰によって受ける平安
- *参照 2サム22：3、23、詩篇46、57：1、61：3、91：2、イザ25：4、ゼバ3：12など

3.敵が恥を見るようにしてください（18節）

(1) 神の義が全うされるようにという願い。*個人的復讐の願いではない。

III 安息日を守れ～祈りを受けて（19～27節）

1.契約関係に立ち返れ（19-23）

- (1) 安息日はモーセ契約における「しるし」である（出31：12-17）
 - ①出エジプトの出来事を覚えるしるし（申5：12-15、エゼ20：10-12）
- (2) エレミヤはエルサレムのすべての門で、安息日を守るよう呼び掛けた。
 - ①安息日に物を運ぶな ②労働をするな ③きよく保て
- (3) 先祖たち同様に安息日を守らない、若い世代への再度繰り返しの警告。

2.さばきを免れるかどうかはイスラエル次第だった（24-27）

- (1) 安息日を守る祝福：①ダビデの家系の王たちの統治が続く。②エルサレムでの永遠の住居。③神殿は国民の霊的営みの中心となり、異邦人も巡礼に来る。
- (2) 安息日を無視した場合の呪い：ユダの首都、エルサレムの崩壊
- (3) 結果的に、イスラエル民族として立ち返ることはなかった。

3.この民を矯正する方法は、捕囚しか残されていない。

- (1) 捕囚を免れない状態にしたのは、神でなく民である（8章でも同様のやりとり）
- (2) エレミヤのことばと、神の猶予（恵み）を軽んじた代償はあまりにも大きすぎた。

◆まとめ：神の恵みをむだに受けない 2コリ6：1-2

- 1.神による猶予の例：ノア洪水までの猶予、十字架から紀元70年までの猶予…
- 2.キリストの犠牲と愛～神の招きを拒否することは、神の愛を拒否すること。
*神の自己啓示：イスラエルに対する守り（昨今のワクチンに関する報道）
- 3.さばきを免れよ：死後の滅びと大患難時代が来る前に
- 4.恵みの機会は無限ではない：(1) 地上生涯の残された時間は誰も分からない。
(2) 心がかたくなになる前に立ち返れ：御霊の働きの招きを無視し続けるな
- 5.信者への適用：神の恵み（救い）を受けた者は、更に神様に喜ばれる歩みがしたいと願うはず。そう思わないなら、それは恵みをむだに受けていることになる。聖霊に満たされ、神の愛に応答し、幸いな機会を日々生かしてゆく決心をいたしましょう。（本来の2コリ6：1-2の主旨）